

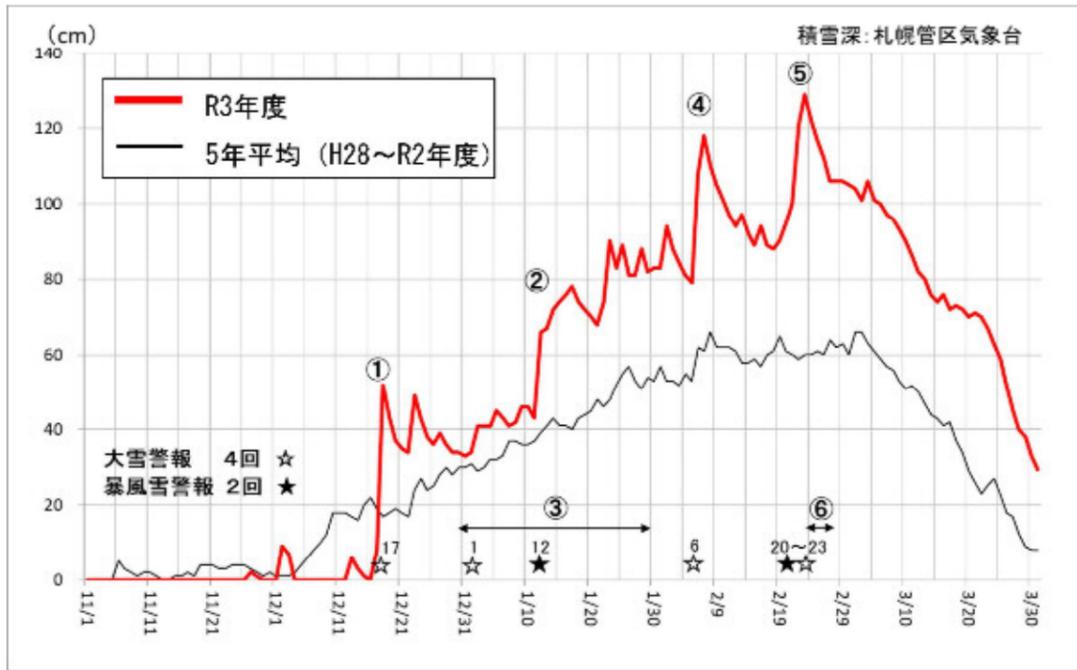
R3年度冬期の状況

1 気象状況

令和3年度は、記録的な大雪に見舞われる日が度々あり、市民生活に大きな影響を及ぼした。

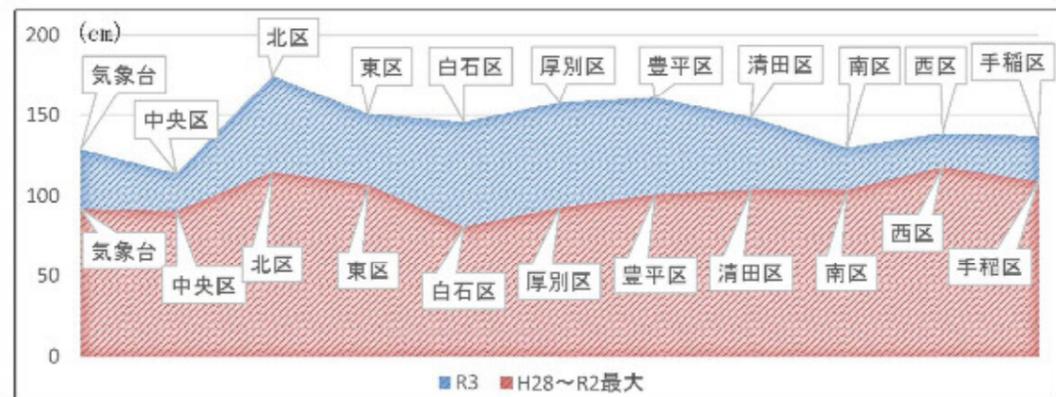
【主な特徴】

- ① 12月18日の24時間降雪量は、1999年統計開始以降最多の55cmを記録した。
- ② 1月12～14日の3日間で湿った重たい雪が46cm降った。
- ③ 1月の累計降雪量は182cmであり過去5年平均と比べ2割程度多かった。
- ④ 2月6日の24時間降雪量は60cmであり、統計開始以降最多を更新した。また、積雪深が1mを超えた。(積雪深が1mを超えたのは8年ぶり)
- ⑤ 2月21日からの3日間で44cmの降雪を記録し、積雪深は129cmに達した。
- ⑥ 2月26日の最高気温が8度を記録するなど、前日(1.9度)から大きく上昇した。



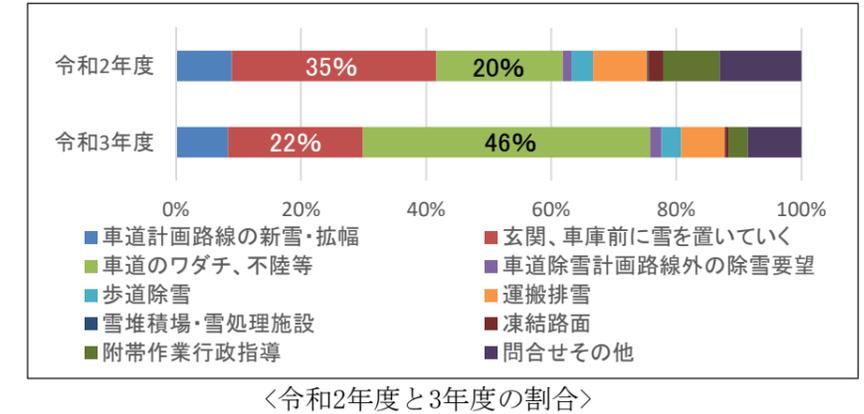
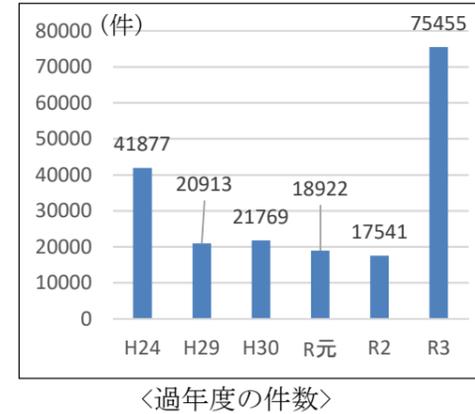
令和3年度は、過去5年最大積雪深と比べ市内全域で積雪深が高かった。特に白石区は1.8倍、厚別区は1.7倍、豊平区は1.6倍と大幅に高かった。

	气象台	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区
過去5年最大積雪深	92	91	115	107	81	93	101	104	104	118	109
令和3年度最大積雪深	129	114	175	151	146	158	161	149	130	139	137
過去5年と令和3年度の比率	140%	125%	152%	141%	180%	170%	159%	143%	125%	118%	126%



2 要望・苦情等

- ① 要望・苦情件数等は、過去最高であった平成24年度の1.8倍(7.5万件)を記録した。
- ② 件数が最も多かったのは「車道のワダチ、不陸等」で、全体の5割を占めている。
- ③ 令和2年度と3年度を比較すると「雪を置いていく」と「ザクザク」が逆転している。



3 大雪による道路や雪堆積場の状況

【幹線道路】

- ① 除雪水準(幅員確保基準)が確保できていない路線があった。
- ② 通行止めにはならなかったものの、道路幅が狭くなり交通渋滞が発生した。
- ③ 道路幅が狭くバスが交差できない路線や曲れない路線は、運休や迂回運行となった。
- ④ 道路脇の雪山が高くなり、見通しが悪い交差点があった。

【生活道路】

- ① 特にシーズン後半では、除雪水準(圧雪厚・幅員)を確保できていない路線も多かった。
- ② 圧雪が厚くなっていた路線は、特に3月以降、気温の上昇によりザクザクになり、路面状況が悪化した。

【雪堆積場】

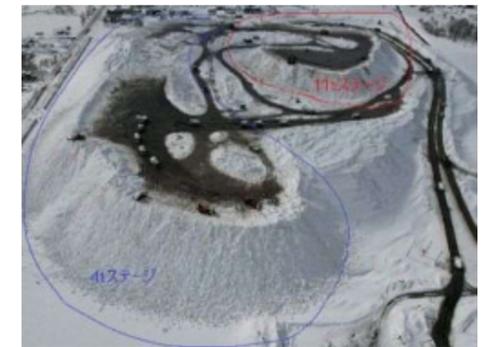
- ① 雪堆積場場内が混雑し、また周辺道路でも渋滞が発生した。
- ② 市専用以外の雪堆積場では、民間需要が多く、予定した公共排雪の搬入が制限された。
- ③ 利便性の高い雪堆積場は、例年よりも早期に閉鎖となった。
- ④ 排雪作業は続いていたが、春先の暖気の影響で受入可能な雪堆積場は少なかった。



〈幹線道路〉



〈生活道路〉



〈雪堆積場〉